

おおやまと

大倭出版局・大倭紫陽花邑

平成30(2018)年
5月号
通巻573号
毎月23日発行
(題字 矢追日聖)

★発行日 平成30年5月23日
★発行所 大倭出版局
〒631-0042 奈良市大倭町1の12
☎(0742)44-0015
★印刷 大倭印刷 監製
★定価 1部 250円
年間購読料3,000円(送料共)
★郵便振替 01050-6-67002
大倭出版局
URL <http://www.ohyamato.jp>



「初夏寸景」富雄川沿いの田圃 奈良市 和田保さん撮影

平成6(1994)年4月30日 エミサリーの皆さんとの座談より

続・互いに通じるものを感じて (1)

於：大本宮拜殿

法主 矢追日聖 (満82歳)

平成6年5月1〜4日、野草社の企画により、大倭紫陽花邑でエミサリーの「アート・オブ・リビング・セミナー」が日本で初めて開かれました(その後も各地で開かれたそうです)。その前日、エミサリーの皆さんやセミナーの参加者らが法主さんを囲んで交流のひとつを保持しました。その時の録音テープが残っていたと、最近、李章根さんから提供を受けたものです。

タイトルは、同じ年の少し前、2月7日の法主様とエミサリーのメンバーとの話し合い「互に通じるものを感じて」(平成6年7〜9月号連載)の続編ということになりました。

今はその頃から20数年の時が流れているわけですが、幸い、この時通訳をされた上野幸夫さんに、現在の様子を書いて頂くことができました。

編集部

エミサリーとは

平成5年9月号の「寸紗」第10回に、アメリカのコロラド州にあるエミサリーのサンライズという共同体に住む女性、マーシャ・ボゴリンさんが登場している。それによると、「エミサリーというのは、神の光の使者」という意味ですが、この矛盾と混乱に満ちた世界の中で、神の絶対的な摂理にもとづいた「いのちの調和」をとりもどしていこうという人たちの集まり」で、1930年代から活動を開始し、世界の各地に大小の共同体や支部があるという。野草社の石垣雅設・

清水夫妻の案内で大倭を訪れ、法主様に2回会っただけで彼女は「ビタリと波長が合ってしまったかのよう」だったと岸田哲さんは書く。

〔参考〕法主様の帰幽後にエミサリーのメンバーから届いた手紙(平成8年8〜11月号にかけて)、平谷照子さんの「エミサリー・サンライズとネイティヴ・アメリカンのホピ族の土地へ」(平成6年2月号)連載7回)

〔参加者〕(発言から推測して)

石垣雅設

石垣清水

マーシャ・ボゴリン*

ユージン・パク*

ユージンの母

パトリシア・タシロ

五百木邑子

山端法玄

金籠子

李章根

通訳：上野幸夫、*印の方が英語での発言

初めて会った感じがしない

法主 今日どんな話で集まつてんの？ 目がややくいし耳がもうちよつと難聴やしね、

石垣 日本語で話をする人は声を大きめに、英語の人は上野さんに聞こえればよいです。

ユージン* またお会いできて光栄です。お元氣そうで何よりです。

マーシャ* 丁度お花が咲いている時期に来てとてもきれいです。

法主 あんた達も元氣そうやね。この方もう2回

か3回会おうてるね。前は大使神宮の方で会いましてね。

マーシャ* お生まれになったところとお聞きしました。

石垣 今回4回目のお目です。初めて来たのは11月でしょ。それから2度目が夏7、8月で暑い時。それからこの前が1月の初めで冬でしょ。今度春に来たので、4回で不思議と春夏秋冬の日本の四季に来ておられますねえ。

法主 この方は初めて？

上野 ユージンのお母さん。

ユージンの母 前からお会いしたいと思ってました。いろいろ教えてください。

石垣 (※ユージンは韓国生まれの男性)。お母さんは、日本女子大を卒業されたそうです。

法主 日本語もよう分かつてはる方やわねえ。ずっと日本でいらつしやつたんですか？

ユージン母 7年位ね。学生4年で、それから3年位いました。

石垣 初めての方でパトリシア・タシロさん。ご主人が日系3世のアメリカ人なんです。大分県別府出身だそうです。

パトリシア (日本語で) はい、そうです。法主 何とはなしに初めて会ったような感じはせ

んような方ばかりやね。

石垣 邑子さんだ！(遅れて来られた様子)

法主 神宮で通訳した子やね。一緒に写真撮ったわね。

邑子 (涙、涙) どうも御無沙汰しております。法主 あんた、調子悪いと聞いたとたんやけどね。

元氣そうな顔になったね。

邑子 お陰様で。病院に4ヶ月入院しました。石垣さん達が来て下さった時は、入院して間もなくで声も出ないし、今よりも10キロ痩せてました。

その後抗がん剤を使って頭が丸坊主になって。去年1年死んでましたけども、この2月から元氣になって大分動いています。

法主 ほんまに元氣になってもらって結構やね。

邑子 でもずい分いろいろ勉強になりました。病氣になった時から「何故自分が」とかそういうふう思ったことがなかったんですね。なるべくしなりましたと思つてたんですけども、お金で買えない経験をさして頂きました。

元氣になったからこんなことも言えるんですけども、でも多分何かのために私が経験しなきゃいけなかったことじゃないかなと思つてます。

何か日聖様のお顔も違つて見えます。(笑)

法主 そうかな。(笑)

心の世界は一つ

マーシャ* 皆が知り合いになれたのは、邑子さんのお陰です。

石垣 ほんとだねえ。(※石垣雅設・清水夫妻が邑子さんと共にエミサリーを訪ねたのが最初の縁で、その後野草社のつながりを通じた一行で訪問したという)

清水 ユージンさんのお母さんが、拜殿の入口にある「戸穂加身恵見田芽」という字の下の神代文字ですか？ これを見られて、朝鮮の古代ハングルと同じだと、「これ、何ですか」と言われるんです。直接聞いてみて下さいって。

ユージン母 何だか私は読めるような気がする。

法主 私は知らんですよ。(笑)

とにかく大倭では、今から三千年も五千年も昔からの、肉体のない霊界人が「ああせい」とか「こうせい」とか言うてくるんですね。その古い霊界人があんな字で見せてくれて、音では、「ト

ホカミエミタメ」と読めと言うから、何の意味かは分からんねんけど、その通りしてるだけです。ユージン母 字は古代のハングルの字体。

法主 あ、そう。古い時代やからね、中国、韓国、日本は一つです。切り離して日本だけじゃない。大体、日本列島が東の端やから、西からの人がずっと寄って来てるんですよ。同じ人間が一緒になつとてんから、我々はアジアの混血人ですよ。みな同じ空気を吸うて生きさせてもらってるんや。

ユージン母 今からはもつとそうならなくちゃ。法主 そうです。だから大倭には、昔の人達が韓国から来ていることもあれば、あるいはもつと西の方から来ていることもある。とにかく日本という国は東の端やからね。ここで溜まるんですよ。だから、アジアの文化がみな集まってるんですよ。

ユージン母 ここで花を咲かせてるんですか。法主 そうです、そうです。だから、うちの施設は安宿苑という名前にしていますが、「アスカ」は昔の百済人の言葉ですよ。

百済の人達が日本へ来た時は、最初に河内に住まいした。だから「近つ飛鳥」と言います。それから大和の方に移って「遠つ飛鳥(明日香)」と言ってます。

今いろんな文化財が出てますけれども、あれは韓国の文化です。現代はね、韓国や日本やそんな行政上の区別つけているけども、心の世界、文化の世界は一つなんです。それが何かわらんけれども、そんな区切りのない大らかな気持ちになれない

んです。けれども今の地球は一つやわな。だから地球に住んでる人間は、皆が平等で皆が幸せになるように仲良ういかなあかん。上を見た時に、宇宙には地球以外の星がたくさんあるんやからね。せめて我々地球における人間はみんな仲良うにね。

生まれたら死ぬの決まってるんや。50年、100年、なんぼ生きたって200年はちよつと無理ですもんね。わずかの人生を、そんなに苦しめて暮らすこといらへん。私は出来るだけ皆と仲良う、気楽に生きたいねん。

大体、物事の利害関係にこだわって、優越感や劣等感を持って苦しんだり、そんなこと私は嫌やねん。もつと気楽に生きたい。私もお陰さんでもう(数え)83歳や。あとわずかの人生やもんね。ユージン母 あそこに磐が祭られてますね。韓国でもね、昔から磐は村々で、村を守る磐を、珍しい形をした磐を祭ってる。

法主 古代文化いうたら、韓国も日本も一緒ですよ。ユージン母 みんな同じね。法主 古代文化は一緒です。今の日本の古墳から出てきているいろんな物は、ほとんど韓国の方から来てる。最初持ってくるのは韓国人だとしても、それがたいいてい日本に出来ている。日本には器用な人たくさんおるからね。真似するの、上手やねん。また同じ物作るんやね。(笑)

「アスカ」は韓国語か知らんけれども、永久に幸せに暮らしていける場所だという意味だそうですね。だから私の思うのは、日本人には、大陸から来た人に「いらつしやい」と受け容れる精神的なものがあるんです。島国のこんな小さいところにおる人間やから気持が小さいんだけど、その点ではみんなを受け容れるおらかさがあるんで

す。それで中国、韓国の文化は日本で花咲いているといふ、そんな形になんねんわな。

最近、石垣さんなんか野草社の関係でね、エミサリーのあんた達やとか、海を越えた向こうの人が一緒に同じように、一堂に集まって話し合いが出来るしね。これは今の時代として最も必要なことやと思うわ。

ユージン母 今からはもう一つの世界になつていきます。

法主 そうですよ。人間は生まれたら、死ぬの決まってる。これは逃げることできひん。お互いにわずかな人生やもんね。みな協力してお互い助け合うていかんとね。争いはもう駄目です。今の時代は、みんな仲良ういくぞという気持ちに切り替えていかないとけない。

まあ大倭に寄つてきはる人は、そんな人ばかりやから嬉しいなあと思うねん。

霊界人に教えられる

石垣 山端法玄さんも、今日は初めてです。

法主 どちらからですか？

法玄 静岡県の三島と熱海の間です。(※静岡県函南町の長源寺)

法主 仏教であれば宗派とがありますわね。感じが…禅宗ですか？

法玄 曹洞宗です。でも私自身には宗派ないんです。ほんとに全然ないんです。

法主 そんなでよろしいんです。同じ仏教の中でも禅は好きです。

又、日蓮さんも好きやねん。というのは霊界の日蓮さんとよく会いますからね。

法玄 ああ、そうですね。

法主 日蓮さんは、私の会うてる感じでは出家さ

人と違いますよ。かなり激しい人やけど、あの人はやっぱり一種の政治家ですわね。仏教という摂理でもって世直ししたい、というのがあったんでしようね。

石垣 あ、そうですか。

法主 私はね、禅宗の教外別伝きょうがいべつでんというのが好きやねん。お経に頼らんと、瞑想とか何かによつて悟つていくことですわね。

ところが私自身は自分で悟つたことなんか何も。靈界の人との交流がありますから、いろんなこと靈界人に教わる。だから入口の「トホカミエミタメ」も分からんけんけども、とにかく宇宙の全てのを生かしておる自然の摂理、これは神さん言わなしようがない。万物を生かしておる力ですもんね。そういう自然の神に対して礼拝する時は、必ず「トホカミエミタメ」で拝めと書かれてる。

そして人間に一旦生まれて死んで肉体的ない人、靈界で靈体だけがあるという場合には人格神と言ってますが、これに対しては「ナモタカマノハラ」で拝めと言われるんですわ。それがこの宇宙の真理だと。

「タ」は陽性で、「カ」は陰性ですわね。陽と陰、これはプラスとマイナスという宇宙の相対的な原理ですわね。「太」と「加」、その一体になったところが「ハラ」で「腹」、そういう字を使え言われますねん。自然の「太」と「加」やから、肉体の「腹」と切り離して「天」という字をつけて、「太加天腹」と切り離して「天」という字をつけて、「太加天腹」と書きます。

石垣 ナモですわね。

法主 ナモです、「ナモタカマノハラ」。だから私は研究したんでもなければ勉強したんでもない。

靈界の人が教えてくれる、そのままなんです。自然神に対しては「トホカミエミタメ」、人格神拝む場合は「ナモタカマノハラ」という言葉を使いますわね。

そんな宗教らしいことしようとすると、日本も法治国やし宗教法人でなければできません。だから、まだマツカーサーの時代でしたが、昭和21年に一応宗教法人の認証をとりました。今は文化庁が扱ってます。毎年事業報告しなげませんけど、私はいつも「信者なし」と書いときます。靈界の人がそう言うから私は素直にしてる。宗教団体は信者をつくらないといけないという、私はもうそれが嫌い。(笑) 続く(文責・編集部)

あの時とそれからのことなどを少し

大阪府堺市 上野 幸夫

この座談会が行われた平成6年4月という時期は、エミサリーの第二代の指導者であるマーチン・セシル師(マーチン)が亡くなって7年目に入ったところ。今から思えば、強力な指導者の時代が終わって次の形をさまざまに模索する時期をようやく終えつつあったころのようです。

1932年に覚醒を体験したロイドミーカー師(ユランダ)がコロラド州ラブランドに本部を開いたのが1945年、法主さまが大倭教の立教宣言をされたのと同じ年のことです。ユランダは1954年に飛行機事故で亡くなりましたので、彼がコロラドで活動できたのはわずかな期間でした。アート・オブ・リビング・セミナーは、その短い期間にユランダが主催した労働キャンプの中の入門的な部分を再構成したものと聞いています。初期のキャンプは1年間に及ぶものであったそうです。なぜそんなにも長い期間が、とマーシャさんに尋ねたことがあります。彼女の答え

は、今とは違って古い因習が持っている強い束縛から人々が自分で自分を解放していくためにはとても長い時間と辛抱強い指導が必要だったのだということでした。

スピリチュアルブームと言われて久しいですが、自分自身を根本から解放していくというのは簡単なことではないように思います。アート・オブ・リビング・セミナーでは最終日の最後の時間に言われたことが最も印象的でした。「貴方はこれから『日常』に戻らなければいけません。そこは今日までの数日間とはとても異なる場所なのだということをしっかりと理解しておいてください。ここで手にした新しい学びを日常という現実の中で忘却してしまわないように最大限の努力を払ってください」といった内容でした。

マーチン亡き後のエミサリーは、最終的に、トラスティと呼ばれる数人の人々が集団で組織の責任を負うという体制に落ち着き、ユージンもその一人に選出されました。その後、ユージンとマーシャは結婚し、韓国において長年にわたってエミサリーの活動を続けてこられたグループに請われて夫婦で済州島に移り住み、そこで新たな共同体の建設に取り組むことになりました。マーシャやユージンは韓国での活動に忙しくなり、わたしも通訳から離れ、コロラドや韓国を訪問する機会もなくなつて、今はエミサリー本部から時々送られてくるニュースレターでわずかに近況を知る関係になっていきます。

アート・オブ・リビングという名称はなくなつたようですが、エミサリーでは今もいろいろなセミナーが行われています。どれも、自分で自分を解放し、自ら進んでリーダー(指導者という意味ではなく、率先して行動する人という意味)となる人を求めているようです。

こもれる魂魄の地を訪ねて(第47回)

隠岐島

兼田 隆

昨年、念願の隠岐島に行ってきました。いよいよ小野篁や後鳥羽天皇・後醍醐天皇などが流罪になった隠岐島は、西ノ島・中ノ島・知夫里島の3つの島からなる島前と円形でもっとも大きな島の島後があります。島々を結ぶ移動手段はフェリーや内航船が就航しており、島民や観光客の足代わりになっています。

今回、後醍醐天皇と後鳥羽天皇の足跡を巡る旅として、島根県の七瀬港からフェリーで2時間半の船旅後、島の西郷港に上陸、まずは後醍醐天皇配流先である隠岐国分寺(写真①)を目指しました。寺は隠岐牛突きで有名なモーモードームの横にあり、山門をくぐると「在所址」の石碑や後醍醐天皇御尊像が祀られている鎮守社があります。昭和9年文部省の指定史跡を受けており、配流先の最有力候補地であると認定を受けています。

実は配流先といわれる候補地は島前の西ノ島にもあります。島への移動は高速船で30分、別府地



①



③

区という湾口の高台に「黒木神社」や「黒木御所跡」(写真②)があり、登り口には御所の資料を展示している碧風館や「建武中興発祥之碑」があります。諸説はありますが、隠岐国分寺と比べても西ノ島の御所跡の方が有力候補地であるかのように思っています。

いづれにしても後醍醐天皇は1年余りの流人生活をこの隠岐島のどこかでおくられたのは確かかのようにです。



②



④

隠岐島はユネスコの世界ジオパーク認定をうけており、この西ノ島も大絶壁「摩天崖」や巨大岩の架け橋「通天橋」(写真③)などの絶景に出会える場所でもあります。次に訪問地は中ノ島です。この島は承久の乱後、後鳥羽天皇が19年間の配流生活を送られ崩御された場所です。「御在所跡」や「火葬塚」(写真④)など、天皇を祭る「隠岐神社」があり、近隣には天皇に関する資料を展示している海士町後鳥羽院資料館(写真⑤)もあります。ここで資料館の館長より、レクチャーがあり、和歌と蹴鞠の名門、飛鳥井雅賢と言う公家の話でした。江戸時代(1607年)京都で後陽成天皇の女官達と飛鳥井をはじめとする若い公家衆との間で不義密通が発覚



⑤

り、この地で蹴鞠や和歌を広め、荒れ果てた後鳥羽天皇の御廟修復に私財を投じ、17年もの余生を送ったという話でした。現在、飛鳥井雅賢は後鳥羽天皇の御廟の近くに葬られています(写真⑥)。



⑥



⑦

最後の滞在は知夫里島です。ここは後醍醐天皇が上陸し、一時的に滞在した仁夫里坊跡があります。アカハゲ山の丘陵地に碑が残るのみですが(写真⑦)、今では隠岐牛の放牧地となっており、山頂より眺める景色は絶景です。最後に隠岐島に関連したお二人の歌です。

我こそは 新島もりよ 隠岐の海の
荒き浪かぜ 心して吹け 後鳥羽天皇
ころろぐす かたをとばや 波の上に
うきてただよふ あまのつり舟 後醍醐天皇

こだまことだま

4月号を読んで

北海道小樽市 守谷 明宏

▼冬に雪を積み上げるので、例年4月半ばを過ぎても我が家の庭先はまだ少し雪山が残っています。

北海道は春が近づくと「雪割り」というのをします。これは、雪山を崩して水を割り早く解けるようにするものです。我家の庭も何回かやりますが、2階に届くくらいに積み上げるので中々解けません。それでも雪の下では水仙やチューリップは芽を出しています。自然が春を感じる感覚は鋭いですね。

▼4月号の宮城島豊さんの文の中で、法主さんの言葉の感じがちょっと、「うくん」という印象でした。杉本さんが感応して語る法主さんの言葉が、私には一番しっくりくるのですが。

「こぼれずみ」で岸野さんは「私の場合、法主様の人格を信じるということが先にあった」と書かれています。私は法主さんとは一度しかあった事がないけれど、正直な人という印象を持っています。

「信者なんていなくてもいい」とか、「考古学をやっていたから本来唯物論者」とか、「こうやって話している事を信じるな」とか、法主や教祖は普通そんなこと言わないですよ。

▼私は若い頃、なんのために生きているのかと悩んでいました。そして、「宇宙の愛に応えるために生まれてきたんだ」という確信を持ちました。それは20代後半です。

その前後に自然農法の福岡正信さんや、法主さんと大倭のを知り、私の考えていたことにごく近い気がしたのです(なんか生意気な発言で

すね)。

*

ミクロの世界をみると、原子核がありその周りを電子が回っている。その原子核も陽子と中性子が回って構成されている。この原子が集まって分子が構成され、それが結合されて物質ができて、それが動植物や地球を構成している。

一方、マクロの世界では、地球を中心として月が回り、その地球は太陽を中心として回っていて、太陽系はまた銀河系の中で回り続けている。その銀河系もまた大きな星雲体系の中にある。

ミクロもマクロも同じ構成となっていて、これらのエネルギーの総体が宇宙であり、あえていうとしたら、それが「神」といえるものである。その構造体できている「私」という存在は、「神」そのものであり、それゆえに「神」という構造体の一部である。それは表裏一体のもので切り離すことができない。そのエネルギーの総体に応えるために「私」は生きているのである。このエネルギーの総体が、法主さんのいう「自然神」であり、4月号にも書かれている「大日如来」であり、「久遠の本仏」なのだろう。

もう一つ大きく俯瞰してみる。宇宙はラッパの様に太い所と細い所が繰り返される螺旋上のもので、両端は繋がっていてどこが始まりでどこが終わりというものもない。またそれはクラインの壺のように裏だったものがいつの間にか表になっている構造だ。その表層を螺旋状に辿っているその刹那が、今現在の私達が物理学で語る「宇宙」だ。そんな刹那の中で生きる私たちが、本当の宇宙の果てがどうなっているかを知って一体何の意味があるのか。

蟻の巣で生きる一匹の蟻がいる。その蟻は他のものが世界の果てとと思っている壁を偶然に通り返

け、違う世界を見て帰って来て叫ぶのだ。「みんなよく聞け。この世界のずっと先には全く違う世界があるんだ。みんなが知らない世界を俺は知っている」と。だが彼はみんなが行かない、または行けない数メートル先の壁の向こう側を見てきたに過ぎない。地球はもっと大きくて広いのに。この一匹の蟻が今の私たちなのではないだろうか。

*

生きている「私」は、「身体」と「霊体」でできているというのをずっと前から思っていた。昔から、超常現象とかUFOとかにも興味があり、霊体は21グラムというのを読んだこともある。

霊体を例えるなら、コップに入れた水を氷らせたものである。肉体というコップの中にある氷は形があり、コップを通してだが「ここにある」と示すことも出来る。しかし、常温になるとコップの中の氷は溶けて水になり、それをどんどん高温にさせていくと水蒸気になり、やがて空気と一体となってしまふ。しかし、肉体というコップがなくなってもコップの中にあつた水は、間違いなく空気の中に存在し、私たちの周りにある。ただ、「ここにある」と指さす事が出来ないだけだ。だから霊界と現界は一体で切り離す事が出来ない。そして空気のある一ヶ所の温度を下げていくと、水滴になり見えるようになる。それが俗にいう「幽霊」として見えるような状態ではないか。霊的な交流が出来る人というのは、特定の場所の温度を下げられるような能力があるということ。

*

▼言葉にすると、どんどん頭の中のイメージと離れていくので、読んでいる人は一体何を言いたいのか分からないと思います。だから、こんなことを書いている私は、やっぱり完全に「行っちゃっている」人なんですよ。

寸 莎

第130回

石川 君子さん

人の中に生きて

「便利なものは何もなかった菅原園での職員時代、息で手を温めあためして洗濯物を干し、夜空を見上げて涙を流したこともあったかなあ。昭和一桁生まれは辛抱強いから苦労とも思わなかったけど、今から思うと、そういう時代を乗り越えてきたから今の私がある。」

ありのままのん気やで、病気をしていたは死ぬほど苦しんだけど、法主様のおかげもありいな、両親のおかげもありいな。自分の心掛けもいいいな？これは違うか！（ははははっ）そんな風に思いながら今は元氣だして頑張っている。毎日を大事に生きて行きたいと思っています」

昭和7年9月、石川君子さんは長野県飯山市に、9人兄弟の長女として生まれた。千曲川が流れ、近くには野沢温泉が湧き、毎年のように兄



弟や同窓会が開かれている。

「昔は冬になると1mの積雪があつて、朝一番は親父さん（岡村忠司さん）がフンコギを履き雪を踏み均して階段を作る。すごく寒かったけど皆つよかったね」

戦争中、勤労動員はあつたが、飯山に空襲はなく、りんごの木の下から戦闘機が飛び去るのを見ていた。

君子さんは、母親の朝栄さんの影響を大きく受けて育つた。世話好きで、飯山駅で下車する友人を見つけてはお茶と漬物でもてなした。それにおしゃれな人だったそう。

高校を卒業して、住友電工名古屋製作所に就職。庶務課に配属されたいブを打つた。23歳の時、大阪本社から経理課に転勤してきた石川茂さんと結婚。真面目で堅い人だったそうだが、君子さんを束縛することはなかった。一男一女を授かる。

本社に戻り奈良に引越して、40歳

を過ぎた頃、須加宮寮で看護師をしていたお隣の方に、ボランティアに来てくれないかと請われたのをきっかけに就職する流れとなった。須加宮寮、菅原園で60歳の定年まで働いた。辞めずに続けてこられたのは、「人の世話が好きだったのと、気さくに住居者と職員が交流できるような場に法主様がしてくれたこと。それに職員同士のつながりがあったから」だという。また当時は安宿苑と邑人の関わりもあり、おおらかな雰囲気だった。マージャンも反保隆臣さん（邑人）の妹の我原芳子さんに教えてもらったそう。

瑞光院には米山キミさんと連れ立って伺ったことがある。法主様は、「石川はそのまま行けばいい」と言われたという。

定年後、友人に敵傍の福祉会館で若返りの健康体操に行かないかと誘われやり始めたのが真向法。からだの隅々まで柔らかくすることで血行を良くし、赤ちゃんのような自然な感性に返っていく。今では数ヶ所の教室で、皆が健康で元氣に過ごせるようにと体操をひろめている。「人生というのはどういう人に出会うか紙一重。こうやって元氣で体操しておられるのは不思議。運が良かった。あちこち海外旅行もできたし、真向法の全国大会で出会った各地の人々

との交流もある。いい時機に体操に誘ってもらって、ずっと続けてきたのは助けになっていると思います」

菅原園のOB会を機に大倭会館でも月2回教室をやるようになったことで、あじさいの箱や大倭会の文化行事にも参加するようになった。

「不思議なところですよ、大倭は。退職して25年も経って再び大倭にご縁ができるなんて思ってなかったけれど、いいところですよ。法主様のおかげですね。法主様の文章を読ませてもらうと、そういう流れで今の大倭があるんだなあと改めて感じます」

一昨年、孫がオーストラリアで結婚式を挙げた。孫は、「おばあちゃんが出来なければ結婚式はやめる。どんなことがあっても絶対に大丈夫だから絶対行こうね」と言ってくれ、孫の婿からも誘いの電話が入った。結果は、まさに「為せば成る為さねば成らぬ何事も」で、勇気を出して行ってよかったという。観光にも連れて行ってもらい、この時、携帯電話でラインをするのを覚えた。

取材の日には快晴だった。午前中は地域のフリーマーケットで炊き出しのお手伝いをしてから来て下さった。今日明日にはひ孫が誕生する。「両親の愛、兄弟の愛。皆がつながっているという感覚がある。孤独ではない」（聞き手 李章根）

あじさい日記

4月15日 大倭神宮で箭賀祭が開かれました。久しぶりに磯部一家(静岡県磐田市) 5人が参拝されました。

4月21日 午後、交流の家でF IWC定例委員会。

4月22日 韓国でハンセン病回復者定着村の活動をされていた呉済天牧師(85歳)が帰幽。昭和46年、紫陽花邑に住む故金昇允さんを訪ねた時に法主様と出会った。呉さんからの招請に、法主様の代理として故飯河四郎さんと柳川義雄さんが韓国へ。F IWCによる韓国キャンプが始まり今日まで続いています。

第339回大倭会文化行事 新緑の八尾の弓削神社・由義寺遺跡へ 一奈良時代の「道鏡」の実像は如何に一

日にち 平成30年6月17日(日) 雨天決行
集合 JR大和路線「志紀駅」午前10時45分
交通 ※近鉄学園前尼崎行9:18発⇒9:26生駒着、5番線王寺行に乗換え9:34発⇒10:00王寺着、JRに乗換え4番線難波行10:18発⇒10:37志紀駅着。
 ※JR奈良より2番線尼崎行(快速)9:51発⇒10:06王寺着、以降と合流。
 ※JR天王寺より16番線王寺行10:26発⇒10:44志紀駅着。
 ※車で参加される場合も駅にご集合下さい。
ルート 駅から徒歩で、弓削神社二座、由義寺(弓削寺)跡へ散策。ボランティアガイドさん同行。その後、お店で昼食。
問合せ 湯浅携帯 090-6987-5847

4月23日 大倭大本宮月次祭。中村昇次さんの帰幽一年祭は4月30日ですが、この日に皆さんで偲んでもらうてはと教長さんに相談させてもらったところ、祭壇に昇ちゃんの写真も飾ってやうってと言って頂きました。好ぎだったくるみパンをお供え。

午後4時から大倭会館で大倭会役員会。前年度決算と今年度の予算について。関東方面で大倭会活動が出来れば等の話題もありました。

5月6日 大倭神宮月次祭。井上治子(東京都世田谷区)・児玉洋子(同東久留米市)・水澤節子(神奈川県川崎市)さんの3人が初めて参拝され、その後

近藤和江(神奈川県横浜市)・金子ハナ子(東京都柏江市)・金子泰江(さいたま市)さんらと紫陽花邑にも来られました。夜、大倭会館で邑倭の会。

5月8日 大倭病院で10時〜2時、看護の日(12日)のイベント「あなたの健康チェック!」が催されました。体重・血圧・血管年齢・骨密度・握力測定等に参加者121人。

5月10日 大倭安宿苑が設立62周年、軽費老人ホーム大倭滝の峯荘(奈良市千代ヶ丘)が47周年の記念日でした。大倭安宿苑では

(菅原園) 4月16日 2名が買物外出でボランティアさんとイズミヤへ行きました。

(須加宮寮) 4月22日 5名が奈良県障害者スポーツ大会卓球の部に参加しました。金メダル2個、銀メダル2個、銅メダル1個獲得。(長曾根寮)

4月28日(特養) ボランティアさんによる喫茶倶楽部あじさいに18名が参加。おやつはショートケーキ・季節の和菓子のどちらか。歌と踊りは「茶摘み」「故郷」「六甲おろし」で、最後に皆さんで鳴子踊りを楽しみました。

5月5日(デイ) 端午の節句でこいのぼりサンドを作り、思い出話に花が咲きました。

お詫び 先月号、中学入学の中島慶英君、高校入学の中島智英君は、「井野」の間違いました。スママセン。

シャッターチャンス!

教務本庁前の桜
3月29日、田中知子さん撮影



あんない

*月次祭(大倭神宮)
6月6日(水) 午後2時より大倭神宮にて。

*大倭会主催第593回祝会
6月10日(日) 午後2時より大倭大本宮拝殿にて。6月は12月とともに大祓ぎの月です。

*月次祭(大倭神宮)
6月15日(金) 午後2時より大倭神宮にて。

*月次祭(大本宮)
6月23日(土) 午後2時より大倭大本宮拝殿にて。

こぼれずみ

岸野春子

昨年、昇ちゃんの追悼特集で「食」について書き、一年祭の節目に「住」について書くことにしよう。昇ちゃんは43歳で紫陽花邑にきた。当時はプレハブの建物が続くかあって、滞在する人達は大体そこで寝起きしていました。それはそれは色々な人がいたものです。

邑も変化してプレハブも消える時、60歳になった昇ちゃんだけが残っていた感じ。倭商の故中島康治さんが、邑で老後を過ごすため新築したものの結局住まずに解体する家があるから、その材木で昇ちゃんの家を建てようとしてくれました。

昇ちゃんの貯金200万円に對し260万円かかってしまいました。法主さんに、募金運動をしてもいいかと聞きに行く、それはしないのでほしい、ちょうど『やわらぎの黙示』の印税が入ったからと言われて、それをそのまま回してくれました。残額は少しづつ倭商さんに返したものです。

その家に24年間住みましたが、まだまだ使えそう。活用したらどうかとリフォームもしました。邑に滞在する場合等の利用を想定していますが(自主管理のできる方に限る)、他に活用方法があればまた相談下さい。